

タイにおける国立六大学連携コンソーシアムの活動

バンコク研究連絡センター

簗輪 知佳

1. はじめに

大学職員として働き始めてからこれまで「国際化」という言葉を耳にしなかった日はないので、はないかと思われるほど、大学職員にとって「国際化」という言葉は身近なものになっている。

私自身は国際関係の部署で働いた経験はないのだが、仕事で学生用の授業科目一覧などを見る私が学生の頃とは比較にならないほど「国際関係」や「国際交流」など、科目名に国際〇〇とつく科目や、いわゆる長期休みを利用して数週間で実施される海外研修の科目が充実しているように感じられる。今の学生にとって海外は私達が学生の頃よりもずっと身近なものになっているのだろう。

そのようなことを感じているうちに、縁あって日本学術振興会国際学術交流研修に参加する機会を与えて頂くことになり、二年間の研修生活を送るため所属大学を離れることとなった。不思議なことに、離れるとより一層自大学への興味が湧いてくるものようである。日本学術振興会東京本部で勤務しているころ、私が本籍を置く新潟大学も関わっている興味深い取り組みを知ることができた。それが、本レポート内で紹介する国立六大学連携コンソーシアム (the Six National Universities Network/International Education & Research System, Japan、略称SUN/SixERS) である。

新潟大学は新潟の地元根付いた国立大学であると同時に、旧医科大学を始めとする地域に根付いた他の 5 つの国立大学と併せて、旧医学系六大学(以下、旧六大学)と呼ばれる大学グループの一角を占めている。

しかし、近年大学の国際化が盛んに議論される中であって、旧六大学に属する各大学は国際化に関して共通の課題を抱えていることを認識し始め、2013年にはこれまでの旧六大学の枠組みをもとにSUN/SixERSという新たな枠組みでの活動を開始することとなった。

ここで、SUN/SixERSの設立の理念を以下に紹介したい。

「(略)我々国立六大学は、その歴史や規模、各地域の中核的教育・研究機能を担う点など共通する立ち位置に在り、直面する課題についても共有できるものが多く、それぞれの大学が持てる優れた教育研究基盤を活かしつつ、高度な国際性、学際性、先進性に裏付けられた教育研究を連携・協働させることにより、国家と社会の要請に真に先がけて応えるのみならず、社会の将来像を提起できるものと固く信じる。我々国立六大学は、緊密かつ強固に連携し合い、世界的水準の独創的な研究拠点の創出、グローバル社会でリーダーとなる人材の育成、地域社会への貢献、国際的活動の推進のための具体的な取り組みを急ぎ遂行する決意である。

とりわけ、喫緊の課題は、大学の国際化とグローバル人材の育成である。そのため、六大学は連携して、学生・研究者の相互派遣や大学の教務・事務その他の機能の国際化を早急に整えるとともに、外国の実力ある大学連合とも連携し、世界的な学術交流を推進する。」

以上の理念をみると、各大学とも大学の国際化とグローバル人材の育成に対する強い問題意識があり、かつてない変革期を同じ課題を抱える6つの大学で協力して乗り切ろうという意志が強

く感じられる。

このたび日本学術振興会国際学術交流研修に参加したことをきっかけに学外に出たことは、自大学の存在を別の角度から眺めるのみならず、日本の他大学全体も見渡すことができるようになった。特に、海外研修先として SUN/SixERS の活動が盛んな地域の一つであるタイに派遣していただいたことは、SUN/SixERS の取り組みについて俯瞰する大変貴重な機会であると考えている。

このレポートでは、とりわけ学生交流に関する活動を中心にしたタイでの SUN/SixERS の活動等を関係者の意見を交えながら紹介しつつ、今後の展開の方向性について考察していきたい。

2. 国立六大学を取り巻く状況について

旧六大学とは旧制医学専門学校をその原点とし、1919年の大学令により旧制医学専門学校から医科大学となった6つの大学をその始まりとして、各種の地域の教育機関をとりこんで戦後に設立された総合大学のことであり、東から順に千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学を構成大学とする。

この6つの大学は旧制医学専門学校から昇格した旧医科大学を前身として、その後旧制高等学校、旧制師範学校等各専門分野の旧制学校を統合する形で1949年に総合大学としての歩みを開始したこと、学生数約1万人規模を擁すること、また、各地域において基幹となる総合大学として、国と地域の発展に対する貢献を行ってきたなどの共通点を有する。

そのようなことから、この六大学は「旧六医大(旧六大学)」と呼ばれる枠組みのなかで、これまでも学長会議の定期的な開催を実施するなどゆるやかな協力関係を続けていた。

しかし、「(略)21世紀を迎え、大量生産・大量消費文化の終焉、環境や食料等地球規模の深刻な課題の現出、先進国における少子高齢化の進行、経済等あらゆる分野での国際競争の激化と社会のグローバル化・複雑化など、世界も国や地域も急速に変貌し、知識基盤社会の進展の中核を担う大学自体の在り方にも大きな変革を迫る事態となっている。(略)」と設立の理念でもふれられているとおり、社会の急激な変化は、大学にも大きな変革をせまり始めた。

そのような状況の中で2004年に国立大学が法人化され、数年にわたって前年度比1%減の運営費交付金の削減が行われた。一方で、政府は深刻な財政難を背景として国立大に機能強化を強く求めるようになる。2012年6月に文部科学省から発表された「大学改革実行プラン」¹においては、国としての大学政策の基本方針(大学ビジョン)として大学教育の質的転換や、グローバル化に対応した人材育成、世界的な研究成果とイノベーションの創出などが示され、各大学は、この方針に沿った改革を行う必要に迫られた。グローバル化に対応した人材育成に関連する内容としては、海外留学・交流の拡大等が目標として示されている。

そして、もう一つ特筆すべき状況は、いわゆる世界大学ランキングへの注目が近年高まりを見

¹ http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/_icsFiles/afieldfile/2012/06/05/1312798_01_3.pdf

せていることである。主要な世界大学ランキングと呼ばれるものにはいくつか種類があるものの、評価項目には大学の教育研究に係る国際性をはかる項目²が見受けられる。近年の世界大学ランキングにおいて日本が相対的に低いランク付けになっていることの要因の一つとして、日本の大学の国際性の弱さが指摘されている³。この国際性の弱さは旧六大学にとっても課題である。

このような状況下で各大学における国際化を始めとする改革の動きが加速していく中⁴、旧六大学は共通の課題を有していることを認識するようになり、前述した海外留学・交流の拡大等これからの大学に求められる国際化を始めとした数々の課題に対し、これまで以上に協力していく方針を打ち出した。

そして、2013年3月に設立されたのが、国立六大学連携コンソーシアム(以下 SUN/SixERS)である。

3. SUN/SixERS の基本的な仕組みについて

SUN/SixERS の画期的な点は、海外大学との交流や学術協力を目的とした大学間の自主的な連携を日本国内の国立大学間で初めて実現したことである。

六大学の連携は、現時点では大学の経営統合を伴うものではなく、あくまで協力という形に留まっている。

近年、文部科学省が打ち出している方針に、18歳人口の減少に伴い高等教育機関を適正な規模にすることを目的とした大学の経営統合がある。国立大学法人が複数の大学を経営できる1法人複数大学制(アンブレラ方式)と言われるもので、名古屋大学と岐阜大学などを始め全国で経営統合に向けた動きがあるが、国立六大学の場合は地理的に離れていることもあり経営統合に向けた動きは現在のところないようだ。

SUN/SixERS は2013年3月の設立以来、各校の自主自立を尊重しつつ以下に挙げる事項についての連携と協力を推進するとしている。

1. 教育課程、教育プログラムの共同構築・実施に関すること。
2. 研究プログラムの共同構築・実施に関すること。

² 日本で取り上げられることの多いQS世界大学ランキングおよびTimes Higher Education社等の世界大学ランキングの評価指標については、以下を参照。

<https://www.topuniversities.com/university-rankings-articles/world-university-rankings/world-university-ranking-methodologies-compared>

³⁻⁴2013年11月に文部科学省は国立大学改革プランの中で世界大学ランキングの評価に触れ、国際化を断行する大学を重点支援する方針が打ち出された。

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/12/18/1341974_01.pdf

3. 国際的活動の連携推進に関すること。
4. 社会貢献の共同推進に関すること。
5. その他六大学が協議して必要と認める事項

6つの大学がそれぞれの強みを持ち寄りながら、以上に挙げた項目における連携協力に取り組むことで、教育・学術研究・社会貢献等の機能の一層の強化、グローバル社会をリードする人材育成の推進および国際的な学術研究を推進していく方針とのことである。

なお、以下は SUN/SixERS の組織の説明と組織図である。

●連携機能強化推進本部

主として以下の機能を有している。

- (1) 文部科学省等の関係機関との連絡調整
- (2) 国の施策等についての情報収集及び六大学への情報提供
- (3) 連携事業等の企画・立案
- (4) 連携事業等の実施に関する六大学間の連絡調整
- (5) 国立六大学の取組等に関する広報・情報管理
- (6) 国立六大学連携コンソーシアム協議会，連携機能強化推進本部運営会議，各機構及び事務局長連携会議の事務
- (7) その他六大学における連携機能強化推進に係る業務

●国際連携機構

国際的活動に関する具体的な連携・協力を推進するための調査，企画，事業の実施，連絡調整等の業務を行う。

●教育連携機構

教育に関する具体的な連携・協力を推進するための調査，企画，事業の実施及び連絡調整等の業務を行う。

●研究連携機構

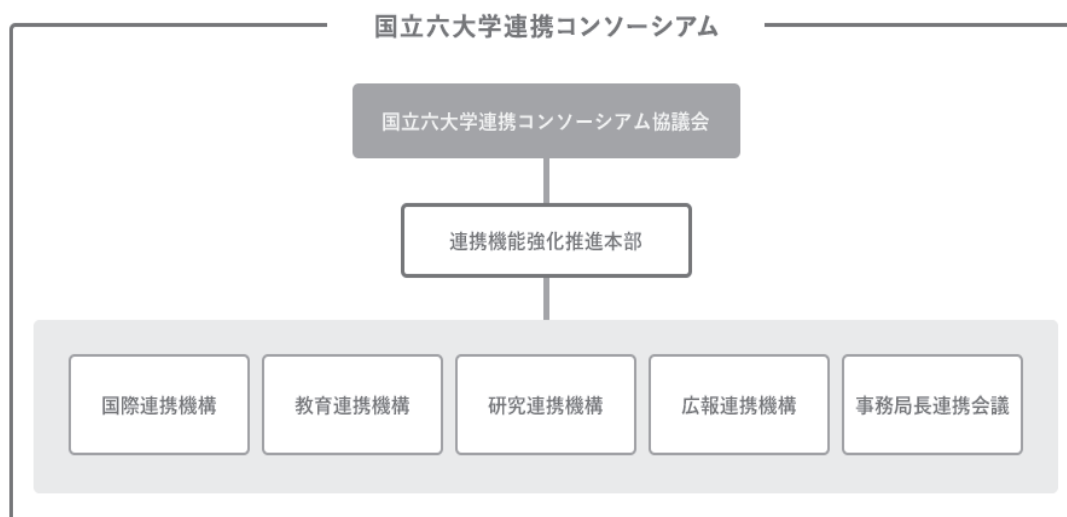
研究に関する具体的な連携・協力を推進するための調査，企画，事業の実施及び連絡調整等の業務を行う。

●広報連携機構

六大学連携事業の広報に関する具体的な連携・協力を推進するための調査，企画，事業の実施及び連絡調整等の業務を行う。

●事務局長連携会議

六大学連携コンソーシアムの連携事業の実施に必要な六大学の事務的な連携・協力に関する業務を行う。



(組織図は SUN/SixERS のウェブサイトより抜粋。)⁵

以前 JSPS バンコク研究連絡センターにお立ち寄り頂いたことをきっかけに、SUN/SixERS 立ち上げ時からこのコンソーシアムに関わってこられた千葉大学の織田雄一教授からお話をお聞きしたところによれば、SUN/SixERS の立ち上げ時にまずは国際関係から連携を深めていく方針になったこともありこれらの組織の中で最も活発に活動を展開しているのは国際連携機構であるとのことだ。

4. タイにおける具体的な活動について

学生交流、研究者交流、事務職員の交流などタイで実施されている SUN/SixERS の活動は、様々なものがある。とりわけ今回は、SUN/SixERS のタイにおける活動における重要なパートナーである ASEAN University Network の紹介も交えながら、研究者交流と学生交流に関する代表的な活動を 3つ紹介したい。

4-1. タイに国立六大学国際連携機構共同利用海外事務所を設立

SUN/SixERS の海外展開戦略の一つに、国立六大学国際連携機構共同利用海外事務所の開設

⁵ <http://sixers.jp/about/>

がある。タイに 2017 年 8 月に開所した国立六大学バンコク事務所（SixERS ASEAN Platform : AP-SixERS）は 2014 年 11 月の長春事務所（中国・長春）、2016 年 8 月の欧州事務所（オランダ・ライデン）に続き 3 つ目の開所となった。

共同事務所を開設したことにより、これまで、一校だけが深めてきた、地域の大学との関係を六大学で深めることが可能となった。欧州事務所を拠点として、欧州の世界的に著名な大学連合や有力大学との交流が実現したように、AP-SixERS もタイを中心とした大学との交流の促進に貢献するものと思われる。

同時にこれまで一校で運営していたバンコクの事務所を六大学で共同管理することで、各校ごとに新たに事務所の開設や事務所の管理を行うよりもコストを抑えながら拠点を持つことが出来るメリットを享受できるようになった。

これは SUN/SixERS の戦略上重要な地域にある大学との交流促進を目的として展開する共用事務所の一つであり、SUN/SixERS が ASEAN 地域を重要視している証ともいえる。なお、2017 年は日・タイ修好 130 周年となる記念の年であったが、その事業の一つとしてこの事務所の開所式が行われている。



（写真は JSPS バンコク研究連絡センターWebsite より）

4-2. 医工学連携をテーマにしたシンポジウムの実施

主に金沢大学が主体となり、日本とタイの医工学連携をテーマとしたジョイントシンポジウムを開催している。2017 年の国立六大学バンコク事務所の開設時に第 1 回目のジョイントシンポジウムが金沢大学とキングモンクットトンブリ工科大学の関係者を集めて開催された。翌年 2018 年 8 月には規模を拡大し、金沢大学と SUN/SixERS の国際連携機構が主催して「第 2 回日タイ研究ジョイントシンポジウム」というタイトルで 2 回目の開催を迎えている。こちらは、日本側は金沢大学を始めとする SUN/SixERS の大学が、タイ側はキングモンクットトンブリ工科大学をはじめ、マヒドン大学や、チュラロンコン大学などタイの主要大学の研究者たちも参加している。

医工学連携をテーマにした理由としては、現在タイ国内で SUN/SixERS の各大学およびタイの主要大学からの教員研究者、大学院生が集まり、研究発表、およびポスターセッションを行っている。

今後の継続的な学生交流の実施には教員間の研究協力や、共同研究の実施が必須であるとの考えのもと、日タイの教員の研究マッチングを行うことを狙いとして実施されている。

筆者は、この「第2回日タイ研究ジョイントシンポジウム」に参加する機会を得た。会場では、参加した日本とタイの大学の教員の研究発表に対し、活発な質疑応答が行われている姿を見ることが出来た。また、ポスターセッションで大学院生たちが日ごろの研究の成果を競い合いながら交流を深めている姿が印象的であった。

さらに、会場にいたタイ側の大学から参加していた教員の一人とお話をさせて頂く機会をいただいた際に、私が新潟大学の職員であることを告げると、「現時点では交流はないのですが、今後は、このような研究交流の機会を通じて新潟大学とも交流をしてみたいと思っています。」という嬉しいコメントをお聞きすることが出来た。金沢大学が持っているタイの協定校との繋がりを金沢大学以外にも広げていく可能性が高まるのではないだろうか。日本側とタイ側双方がこれまであまり交流がなかったであろう大学と、研究者同士の交流を介して、研究面でのつながりを深めていくチャンスとなると考えられる。このようなシンポジウムを SUN/SixERS の各大学とともに実施することは日本側、タイ側にとって大きなメリットがあると考えられる。



(写真は金沢大学 Website より)

4-3. ASEAN University Network との活動

SUN/SixERS は ASEAN 諸国の大学と特にライフサイエンスの分野での交流に着目した学生交流の活発化を目指して、2013年に ASEAN University Network(以下 AUN)とパートナーシップ協定を結び、AUN-SUN/SixERS という枠組みでの活動を開始することとなった。

AUN との活動強化により SUN/SixERS の国際化も更に推進されることが見込まれる。ここからは AUN の概略と AUN-SUN/SixERS の枠組みで実施されている活動を紹介する。AUN との関わりによる SUN/SixERS の国際化に向けた取り組みを見てみたい。

4-3-1. AUN の概略について

ここで、AUN とはどのような組織かについて触れておく必要があるだろう。

AUN とは 1992 年に開催された第四回 ASEAN サミットにおいて、「地域の主要大学・高等教育機関間の既存ネットワークの一層の強化のための人材育成を通じた結束の強化と地域のアイデンティティの強化」を ASEAN 加盟国がサポートすることが呼びかけられたことがきっかけとなり、1995 年 11 月に 6 か国から 11 大学が集まり発足した大学間ネットワークである。設立宣言には 6 か国の高等教育担当大臣がサインし、設立時の覚書(MoA)には各加盟大学から総長、学長、副学長などがサインした。現在は ASEAN の拡大に伴いメンバー校も 10 か国 30 大学に増加している⁶。1996 年に第一回 AUN 評議委員会(Board of Trustees)が開催された際には、ASEAN の地域協力を推進するために AUN が速やかに着手すべき計画として以下のものが示された。



チュラロンコン大学内にある AUN 事務局がある建物（筆者撮影）

- ・学生及び教員の交流
- ・ASEAN 学習・情報ネットワーク構築
- ・および「共同研究」の推進のための「学際的な東南アジア研究プログラム」
- ・地域共同学術プログラムとして実施される「修士号・博士号取得プログラム」
- ・ASEAN 地域研究プロジェクト
- ・ASEAN 客員教授プログラムの設置

2007 年第 13 回 ASEAN 首脳会議にて調印され、2008 年に発行された ASEAN 憲章により、AUN は社会・文化活動分野における活動のカギとなる実施機関として地域統合を推進するため高等教育における各国間の協力と発展を推し進める活動やプログラムを実施する役割を担うことになった。

現在 AUN が行っている活動は以下の 5 つのエリアに分類される。



AUN 事務局（筆者撮影）

- (1) 若者の交流の活発化に向けた取り組み(Youth Mobility)
- (2) 学術研究活動における協力(Academic Collaboration)
- (3) 高等教育分野における協力に関する基準、仕組み、システムおよびポリシーの構築(Standards, Mechanisms, Systems and Policies of Higher Education)

⁶ 各メンバー校の詳細は以下を参照

Collaboration)

(4) 学位課程やプログラムの作成(Courses and Programmes Development)

(5) 地域及び世界的な政策綱領の作成 (Regional and Global Policy Platforms)

ASEAN が地域協力の促進のため、AUN の戦略として指定したものは以下の通りである。

- ・ 既存の ASEAN 域内、域外の大学間の協力ネットワークの強化
(To strengthen the existing network of cooperation among universities in ASEAN and beyond)
- ・ ASEAN が指定した優先領域における共同研究、研究および教育プログラム実施を奨励
(To promote collaborative study, research and educational programmes in the priority areas identified by ASEAN)
- ・ ASEAN メンバー国間の研究者間の協力と結束の強化
(To promote cooperation and solidarity among scholars, academicians and researchers in the ASEAN Member States)
- ・ ASEAN 地域内での高等教育分野における政策志向型の機関としての機能
(To serve as the policy-oriented body in higher education in the ASEAN region)

上述の設立宣言に基づき、評議委員会(Board of Trustees)と事務総長(Executive Director)をトップとする事務局が設置されている⁷。

AUN のメンバー大学⁸は AUN の元、プログラムや活動を実施する。AUN 事務局は調整や監督を実施し、企画、調整、管理運営そして AUN のプログラムや活動の評価を実施する。その他にも、新しい制度の構築、そして AUN の下での協力要請を行い、AUN が自律的な運営を行うための資金調達に関する計画や仕組みを作っている。

AUN 事務局はバンコクのチュラロンコン大学にあり、ASEAN 事務局と緊密な関係を持ちながら、高等教育における地域協力の取組を調整および実行している。

4-3-2. AUN-SUN/SixERS の枠組みにおける活動について

SUN/SixERS とは ASEAN 諸国の大学との活動の活発化と六大学の国際化推進のため、2013 年 4 月にタイのマヒドン大学で AUN-SUN/SixERS Vice Presidents' Meeting を実施した際にパートナーシップ協定を結び、AUN-SUN/SixERS という枠組みでの活動を開始した。

これは、前述の AUN の戦略の一つである、既存の ASEAN 域内、域外の大学間の協力ネットワークの強化(To strengthen the existing network of cooperation among universities in

⁷ 図は ASEAN 大学連合ウェブサイトのものを借用した。 <http://www.aunsec.org/organization.php>

⁸ 現在 ASEAN10 カ国で合計 30 校が加盟している。加盟校の詳細は以下を参照。
<http://www.aunsec.org/aunmemberuniversities.php>

ASEAN and beyond) の一環である。AUN と SUN/ SixERS は学生交流の活発化や国立六大学の国際化を推進するべく、特にライフサイエンスの分野における、医学研究インターンシップやカリキュラムやシステムの柔軟化を行って連携を推進していくこととなった。

千葉大学の織田教授によれば、タイ側はマヒドン大学が特にこの連携に特に興味を示したとのことで、理由は二つ考えられるとのことだ。

まず、マヒドン大学は医学校が元になって設置された大学であるため、SUN/SixERS 加盟校が旧制医学専門学校をその始まりとし、医学系に強みを持つことが共通していること、また、マヒドン大学は国内トップの大学の座をチュラロンコン大学と争うため、すでに多くの日本の大学と協定を結ぶチュラロンコン大学に対抗して、日本の提携校を増やしたいと考えているという。

これまでに実施されてきた AUN-SUN/SixERS の過去三年間の活動を AUN 提供の資料を基に時系列で紹介する。

こちらは開催地をタイに限るものではなく、かつ活動範囲を AUN-SUN/SixERS に日中韓三ヵ国の別の大学も加えられた ASEAN+3 の枠組みにまで広げたものではあるが、AUN とは各大学の学長レベルから学生交流のレベルまで幅広い交流を実施していることがわかる。

開催年月日	イベント名	開催地
2016年 3月13日-3月21日	Visit Japan's Modernization and Post-War Experience (ASEAN to Japan)	Okayama University Japan
2016年 5月30日-6月1日	6th ASEAN+3 Heads of International Relations Meeting	Universiti Utara Malaysia
2016年 10月4日-10月8日	14th ASEAN and 4th ASEAN+3 Youth Cultural Forum	Universiti Sains Malaysia
2016年 10月31日-11月1日	3rd ASEAN+3 Rectors' Conference Host: Guangxi University China	Guangxi University China
2016年 8月15日-8月26日	AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme	AUN Secretariat
2017年 3月5日-3月18日	AUN-SUN/SixERS Joint Programme - Intensive English plus Employer site visits (Japan to ASEAN)	Chiang Mai University Thailand
2017年 3月13日-3月23日	Walking along the Path of Japan's Modern History, Culture & Heritage, and Contemporary Society" (ASEAN to Japan)	Chiba University Japan
2017年 5月23日-5月25日	17th AUN and 6th ASEAN+3 Educational Forum and Young Speakers' Contest	National University of Singapore
2017年 8月15日-8月29日	AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme	AUN Secretariat
2017年 10月31日-11月11日	15th ASEAN and 5th ASEAN+3 Youth Cultural Forum	Universitas Gadjah Mada Indonesia

開催年月日	イベント名	開催地
2017年 11月13日-11月14日	7th ASEAN+3 Heads of International Relations Meeting	Ateneo de Manila University Philippine
2018年 7月26日	4th ASEAN+3 Rectors' Conference	Universiti Brunei Darussalam Brunei Darussalam
2018年 8月18日-8月31日	AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme	AUN Secretariat
2018年 8月18日-8月19日	8th ASEAN+3 Heads of International Relations Meeting	Vietnam National University Ho Chi Minh Vietnam

特に、若者の交流の活発化に向けた取り組み(Youth Mobility)に力を入れていることや、実際に学生交流がタイで行われていることを鑑み、次章では、AUN との協力により実施される代表的な学生交流プログラムである、AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme について説明する。

4-4. 学生交流プログラム AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme について

2015年に国立六大学国際連携機構の国際連携活動が、文部科学省の「国立大学改革強化推進補助金」の「大学間・専門分野間での連携・連合」による国立大学改革の強化推進の新たな取組として採択された⁹。この中に世界では主流とはなりつつあるアライアンス間の交流の促進がある。日本の大学は個別の大学が実施する大学間交流が主体となっているが、世界的には複数大学が連合を組んで国際的な大学間交流を行うことが主流となっている。また、六大学の学部学生数はそれぞれ10,000名前後と規模は小さいが、6つの大学がひとつになることによって、学部学生数は併せて70,000人規模の大学群となり、海外の有名大学との交流も進めやすくなる。

SUN/ SixERS と ASEAN 地域の大学コンソーシアムである AUN との交流はその一環として位置付けられたものである。既に2013年にAUNとSUN/ SixERSは学生交流の活発化や国立六大学の国際化を推進するべくパートナーシップ協定を結んでおり、特にライフサイエンスの分野における、医学研究インターンシップやカリキュラムやシステムの柔軟化を行って連携を推進していくこととなった。

また、2015年からはAUNとSUN/ SixERSとの間で国立六大学合同サマープログラムを実施

⁹ http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1364340.htm

しており、双方の交流活動の中心となっているプログラムでもある。2018年8月に実施された際は岡山大学、金沢大学、新潟大学から29名の学部学生が参加した。2018年のプログラムは以下の通りである(写真はAUN提供)

<p>UN Executive Director とリエゾンオフィサーによるオリエンテーション</p>		<p>ラタナコーシン展示ホール訪問</p>	
<p>Burapha 大学 Ajarn Tanonrat Naktang による ASEAN の概要に関する講演</p>		<p>Team Building をテーマとした文化体験としてのタイ料理体験</p>	
<p>マヒドン大学 Dr.Mark Stephan Felix による 異文化コミュニケーションに関する講演</p>		<p>ムエタイ体験</p>	
<p>国連アジア太平洋経済社会委員(UNESCAP) 訪問</p>		<p>タイに進出している日本企業を訪問</p>	
<p>タイにオフィスを構える日本の機関訪問 JICA 訪問</p>		<p>世界遺産スコータイ歴史公園訪問</p>	
<p>ワット・ポー、ワット・アルン訪問</p>		<p>最終プレゼンテーション</p>	

プログラムからもわかるとおり、各国際機関や現地の日系企業などの訪問や、文化体験、大学で実施される英語を使った授業により、ASEAN の事情、及びタイの事情について概観できるプログラムとなっている。六大学の学生が揃っていない理由としては、各校の学事歴の都合や一定の英語レベルに達している学生を集められない場合があるため、とのことである。

毎年、AUN プログラムコーディネーターとして学生たちの様子を身近に見ておられる、Pasita Marukee さんによれば、このプログラムは学生たちからは概ね好評を得ているとのことだ。このプログラムに参加する学生は、もちろん海外経験、英語のスキルや積極性も様々であるが、最終日のプレゼンテーションの際は皆きちんと意見を発表することができるという。日本人学生の印象は、自分の意見をきちんともち批評もきちんと行えている、また、グループワークの際は性別、英語力などバランスを考えてグループを作るが、その中でも協調性をもって活動を行っている、とのことだ。

5. 各関係者へのインタビュー

本章では、日本側とタイ側のそれぞれ一名ずつにインタビューを実施した。

●金沢大学 大谷 吉生 副学長(国際担当)

日本側はタイ国内に国立六大学国際連携機構共同利用海外事務所(AP-SixERS)の所長である、金沢大学の**大谷 吉生 副学長(国際担当)**である。大谷副学長は、キングモンクット工科大学トンプリ校との研究協力における関係が深く、キングモンクットトンプリ工科大学 (King Mongkut University of Technology of Thonburi : 以下通称である KMUTT で統一) の Knowledge Exchange ビル (以下通称である KX ビルで統一) 内に国立六大学の共用事務所である AP-SixERS を設立した際に大きな役割を果たされた。

今回、金沢大学の代表として今後の活動の展開等に関してご意見をうかがうことができた。



大谷副学長(左)と同行された
金沢大学瀬戸章文教授(右)(筆者撮影)

大谷副学長：旧六大学は学生数、教員数、運営交付金の額がほぼ同じで、個々の旧帝大に比べ、3から4分の1程度です。

しかし、6つの大学を合わせると、個々の旧帝大にこれらで勝ることができますし、教育、研究、国際化も6つの大学でまとまって取り組めば、旧帝大以上のことができるのではないかとの考えから、当時の各大学の学長がイニシアチブをとったことが SUN/ SixERS 発足の始まりで、

まずは、各大学のデータを共有することから始めました。競争的資金などの獲得の際には六大学まとまって申請をすることも始まりました。

また、日本側は岡山大学が主体となって実施されている AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme など、一校だけですと学生が集まらない可能性があります。六大学から学生募集をすることによって、そのようなリスクは減らすことができます。

このようなことを踏まえて、まずは、例えばメンバー校が既にオフィスを持っている国に共用のリエゾンオフィスの設置や、国際的なセミナーの実施など、国際から連携しようという流れになりました。2017年にキングモンクット工科大学の KX ビル内に共用事務所(AP-SixERS)を開所したのはその一環です。

筆者：これまで貴学は一校でオフィスを所有され、大学単位でタイにおける活動を展開されてきましたが、SUN/ SixERS を創設してアライアンスとしての活動を始めてから、タイにおける活動にはどのような変化がありましたか。

大谷副学長：まだ開所したばかりで、共同使用の実績は開所式のシンポジウム以外ないので、どのようにして KX ビルのオフィスを使えるか検討中ではあります。実際に使用する大学に共用事務所を見て頂いたほうがよいので、共同事務所の開所式の際に、共用事務所のファシリティなどを各大学の学長にご確認いただきました。KX ビルは元々 KMUTT が企業との連携を行うために作ったものですので、その関連のイベントが出来ればと考えております。

おそらく六大学の各校の OB の中で、タイで働いている人を探すとそれなりの人数が集まるのではないかと思います。そのようなネットワークを利用することによって、タイで働く SUN/SixERS の各大学の OB の方々に講話者になってもらい、タイで働くことはどういうことかについて、六大学の日本人学生、および、協定校のタイ人学生に対して、お話頂くシンポジウムを開催することが出来るのではないかと考えています。

日本人の学生にとっては、海外で働くことはどういうことかイメージする機会となりますし、逆にタイ人の学生にとっては、日本企業で働くとはどういうことか、イメージしてもらいやすくなると思います。

そのほか、日系企業と学生の就職マッチングセミナーなどを実施できたらと考えており、これが将来的な活動に繋がっていけばと考えています。

筆者：本年は、貴学を中心にタイにて医工学シンポジウムを実施していますが、医工学分野を選ばれた理由というのはなにかあるのでしょうか。

大谷副学長：六大学が旧帝大以外で医学部の強い大学であることから、KMUTT だけでなく、チュラロンコン大学、マヒドン大学などの協定校がこの分野での開催を希望する声があったためです。

筆者：SUN/ SixERS としての活動を展開していくにあたり、何か問題を感じていることはあり

ますか。

大谷副学長：競争的資金の獲得など、六大学すべてで同じ条件が揃わないことがあります。例えば、2013年にスーパーグローバル大学創成支援事業(SGU)の採択校になったメンバー校とそうではないメンバー校ができてしまいました¹⁰。SGUのみならず、六大学全体で同じ条件が揃わないと、SUN/ SixERSとして取り組める活動内容が限られてしまう可能性があるかと思います。

さらに、SUN/ SixERSは六大学で協働していく関係でもあると同時に、一校一校は別の大学ですので、ある種ライバル関係でもあります。一校一校のカラーがありますから、協働していく部分と個々の大学で取り組んでいく部分のバランスをとるのが難しいところではないでしょうか。

いずれにせよ、SUN/ SixERSの立ち上げをきっかけにして、六大学のネットワーク作りはできてきていることは確かです。それをどう生かしていくかがこれからの課題ですね。

●AUN Executive Director Dr. Choltis Dhirathiti

タイ側は、岡山大学との学生交流活動を元にした学生交流プログラムである AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programmeなどを SUN/ SixERSと協働して実施し、今後も SUN/ SixERSがタイで活動を展開する上で欠かせないパートナーとなるであろう、AUNの Executive Director Dr.Choltis Dhirathiti(以下 Dr.Choltis)にお話を伺うことができた。

Dr.Choltisは2017年にAUNの Executive Directorに就任され、AUNと協定を結ぶ、各コンソーシアムとの活動に精力的に取り組まれている。AUNの Executive Directorとしての見解を AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programmeに関する事柄を中心にお伺いすることが出来た。



Dr Choltis. (右)と筆者(筆者撮影)

Dr.Choltis：私がチュラロンコン大学の政治学部(Political Science)の教員であった際に、岡山大学に私の学生を派遣したことが、現在実施している AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programmeの始まりでした。この Study visit Programmeは非常に良い取り組みでしたが、私が個人的に行うものにとどまり、当時はタイの学生を一方向的に日本に派遣するだけでした。例えば岡山大学と協力して、“Study and Visit Japan’s Modernization and Post-War Experience in March 2013¹¹”というプログラムを2013年の3月に実施し、ASEANの学生を一週間日本に派遣しました。この事業の実施に当たっては日本の文部科学省から後援してもらいました。

同年4月、マヒドン大学で、AUN-SUN/SixERS Vice Presidents’ Meetingが実施されました。

¹⁰事業の詳細などはこちらを参照。千葉大学、金沢大学、岡山大学、熊本大学はタイプBグローバル化牽引型にそれぞれ採択されているが、新潟大学と長崎大学のみ不採択となった。
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/sekaitenkai/1360288.htm

¹¹ <http://www.aunsec.org/studyvisitandsummer.php>

この会議の主な目的は、AUN と SUN/SixERS との間でパートナーシップ協定を締結することと、Student mobility を始めとする交流の可能性を探ることでした。

その一環として、私が AUN の Executive Director に就任したのちは、この初期の Study visit のモデルを発展させて、SixERS も含めたより幅広い交流の枠組みで実施するようになりました。

また、現在では夏に日本から ASEAN に学生を派遣し(AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme、以下インタビュー内ではプログラムで統一)、春は、ASEAN の学生を日本に派遣する、相互交流の方式になっています¹²。

ASEAN と日本の双方の学生がお互いの国から何を学べるかを考慮したプログラム作りを心掛けています。

日本の学生を ASEAN に派遣する本プログラムでは、訪問先を SUN/SixERS 側の要望に合わせてデザインしています。今のところタイへの訪問を希望されているようなのですが、AUN の事務局がタイにあることもあり、私共にとってもやりやすいですね。もちろん、要望があれば ASEAN のどの国でも実施することは可能です。派遣国の決定は全て SUN/SixERS 側に一任していますね。

また、相互交流をより一層深めるため、座学の講義だけでなく、例えばタイ料理を作るなど、協力して一つの作業を行う科目もプログラムに組み込んでいることがこのプログラムの強みです。

筆者：このタイ料理作りの科目は ASEAN の学生と日本の学生が協働して実施しているのですね。

Dr.Choltis：いいえ、ここにいるのはタイ人の学生です。今回は参加の都合がついたチュラロンコン大学の学生を集めることが出来ました。

筆者：JASSO,JF および JSPS を本プログラムで訪問された際の学生リストを拝見しましたが、色々な国の方がいらっしゃいましたね。

Dr.Choltis：チュラロンコン大学の外国人留学生です。AUN のインターンにも参加してもらいましたね。彼らにはプログラムの中で、都合のつく部分のみ参加してもらっています。

このプログラムに参加する日本人学生からは、英語で現地の学生などと交流の機会を持つ希望が多くあがります。幸いにして、チュラロンコン大学には ASEAN 域内からの留学生も多く、また、AUN のインターンも多国籍です。彼らを集めてプログラムの中で多国間交流ができるようにしています。

筆者：SixERs の学生はこのプログラムに参加することによって、ただタイに来てタイの学生と

¹² 千葉大学の織田教授によると、その年により ASEAN の学生を受け入れ可能な交流プログラムを提供できる大学が主となって実施しているものであるため、毎年 ASEAN の学生を受け入れる SixERs 側の主催大学が異なっている。2016 年度は岡山大学で、2017 年度は千葉大学の交流プログラムの中で受け入れを行っているとのことである。

交流するだけでなく様々なバックグラウンドを持つ人たちと交流が可能なのですね。

Dr.Choltis : そうですね。また、タイの人達は非常にホスピタリティが高いので、受け入れ先でも歓迎してもらえることが多く、これは学生を受け入れるうえでの強みかと考えています。とはいえ、プログラムの作り方によっては他の国でも同じようなことは可能ですよ。

私たちのプログラムでは「相互交流」をなにより重視しています。座学だと非常に限られたなかのコミュニケーション、つまり一人の講師とのコミュニケーションしかできません。座学の講義は最低限にして、現地での相互交流が可能な科目を今後も増やしたいと考えています。

また、国際機関や、タイに進出している日本の公的機関にも訪問する機会を作っています。彼らにはこれらの機関が実際にどのような活動をしているのか見てもらっています。

タイに進出する民間企業にも訪問していますよ。タイにはたくさんの日本企業がありますから。日本人学生はこれらのアクティビティに対して意欲的に参加しています。プログラム実施後のアンケートの結果を見てみると、こういった機関に訪問することで学生にとっては将来を考えるうえで非常に刺激になるようです。国内のみならず、海外で働く将来についても具体的に考えることができるようになるようです。

筆者 : (コンピューター上に表示された写真を見て)トウトウトにも乗っているようですね。

Dr.Choltis : 地元の人たちの生活にも触れてもらいたいのでフリータイムとしてこのような機会を設けています。とはいえ、リスク管理が大変ということもあり、それほど多くの時間は与えていません。その他の公共交通機関の利用体験もさせていますが、すべて私達の Care の元で実施しています。Care というのは、チーム分けをして我々のスタッフが一緒について行くことです。一人では行動させません。アンケートをみると、自由時間がもっと欲しいという学生が多くいますね。とはいえ、私達がついていたほうがよいと考える学生もいるようです。やはり学生だけでは不安を感じるのかもしれませんが。

筆者 : 海外に慣れている学生と慣れていない学生の感覚の差は大きそうですね。

Dr.Choltis : いずれにせよ、安全管理面を考えると、沢山自由行動をさせるのは難しいのが実情です。

文化的、歴史的な土地をめぐる観光プログラムも学生には好評ですよ。現地でガイドや講義を行ってもらう人を集めて実施します。東南アジアの歴史的な遺構を見もらうため、スコータイやカムペンペットなどをみてもらいます。アユタヤ遺跡は日程等の関係があり訪問ができないのです。スコータイ遺跡の方が、規模が大きく、古いのでそちらの方を優先させています。学生は古いものが好きですからね。

とはいっても、自由時間としてアユタヤ遺跡の見物かエレファントライディングを経験するかを定める時間を一日分別に設けていて、その際は大体の学生はアユタヤに行ってしまうですね。

このように講義、文化経験、企業見学など様々なコマを設けていて、相互交流や訪問した先々で学ぶ機会を多く設けています。フィードバックを見てみると、学生はもっと相互交流の時間をもっと設けて欲しいと思っています。特に英語の練習をするための時間が足りないと感じているようです。これは、来年に向けた改善点です。

筆者：何か、この問題を改善するために具体的に考えていることはありますか。

Dr.Choltis：例えば、スチューデントバディーと呼ばれるボランティア学生をチュラロンコン大学やタイ国内の AUN のメンバー大学からも集めることが考えられます。

また、現在、本プログラム実施中は毎日英語で日報を書かせていますが、短いセンテンスにとどまっていますので、前日に学んだことを次の日の朝に英語で短時間のプレゼンテーションをさせることもできるかと思います。

このプログラムには個人評価を取り入れています。評価は現在 AUN のインターンに行わせています。こちらは、かなり繊細な情報なので公表はしていません。あくまで、プログラムの内容を向上させるためのものです。結果はグラフにまとめて SUN/SixERS 側にお渡ししています。評価項目は Knowledge、Skill、Attitude、Perception などに分けています。

更に、参加前のアンケートをとって、参加後にどれだけ向上したかもみています。綿密な個人評価を行っていることが本プログラムの特徴ですね。

筆者：過去の資料なども見ますと、毎年 SUN/SixERS の全ての大学から学生が参加しているわけではないようです。

Dr.Choltis：大学の学事歴などの都合によっては、プログラムのすべての日程に出られない場合がありますので、都合が合わない大学は参加ができない年があると思います。

もしくは、募集しても学生が集まらない、学生のスキルが一定のレベルに達していない場合などがあるかと思われます。

6つの大学が集まったコンソーシアムに対してこのプログラムを提供することで、プログラムを実施しても全く学生が集まらないという状況は回避できる可能性は格段に上がります。例えば AUN は、文化交流のプログラム¹³を実施しているのですが、日本側には、日本の伝統舞踊ができる学生が必要です。プログラムによっては英語でプレゼンができる程度の英語力のある学生が必要なこともあります¹⁴。いずれも6つの大学があれば、そのような学生を見つけられる可能性が高まりますので、SUN/SixERS 側からは毎回欠席なく全てのイベントに参加してもらえます。

SUN/SixERS は非常に良いシステムですね。

AUN は様々な枠組みで活動を行っていますが、とりわけ重視しているのは学生交流に関する活動です。

¹³ 2017年開催の 15th ASEAN and 5th ASEAN+3 Youth Cultural Forum などを開催している。

¹⁴ 2017年開催の 17th AUN and 6th ASEAN+3 Educational Forum and Young Speakers' Contest などを開催している。

筆者：AUN-SUN/SixERS の枠組みでの活動をどのようにご覧になっておられるのかお聞かせいただけますか。

Dr.Choltis：AUN-SUN/SixERS の活動の評価を行うのは時期尚早とは思いますが、student mobility における協力を開始したことで、特に AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme に参加した学生たちにとっては非常に有益なものになっていると思います。先ほどもお伝えした通り、個々の学生のプログラム活動での様子を観察し綿密な学生評価をしていますから。

私達 AUN と AUN Secretariat は私達の活動に関わっている大学に活動の参加を強制することはありません。一方、我々と協力して活動する各大学の事情はそれぞれ異なるため、各校の事情に合わせて参加できるよう AUN は活動の選択肢を複数用意するようにしています。AUN Secretariat はメンバー大学、特に情報共有をより一層活発にして協力して活動する大学が AUN から提案した活動に参加するか、より一層早い決断ができるようにしていかなければいけません。

6. 考察・まとめ

SUN/ SixERS の活動はインタビューでも触れられていた通り、今後の活動に関してはこれから検討していく段階であり、SUN/SixERS のメンバー校同士は、非常に緩やかな繋がりであるがゆえに、6 つの大学が固定した役割分担を行って急速に活動を拡大させていくことは難しいという印象を受けた。

しかし、SUN/SixERS としての活動をタイにて行っていることに関しては非常に意義があるのではないかと考えられる。

まず、本レポート内で紹介したタイで実施している 2 つのイベントによって六大学の学生や研究者同士の交流は着実に始まっていることが見て取れた。前述の医工学シンポジウムでは、一大学だけでは研究交流の国際化を進めるための日本と海外を繋ぐ教員同士のコネクションには限界があるが、六大学が集まることによってそれまで一つの大学のみが有していた海外の大学や研究者との繋がりを、着実に他大学に広げて行っている様子であった。

さらに、SUN/SixERS として AUN とパートナーシップ協定を結ぶことができたことによって、特に学生の国際化に関する面で、手厚いサポートを受けることができるようになった。

個々の大学が自前で自大学の学生を海外に連れて行く海外研修プログラムの提供は各大学でも行われている。しかし、こういった各大学が自前で実施するプログラムは個々の教員のコネクションに依存する場合が多く、例えば教員の退職などでプログラムを安定して供給していくことが難しいのではないかと感じられることが多い。AUN との連携が始まったことで、前述した AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme を実施できるようになり、学生にとっては海

外研修のチャンスが増えた。さらには、単純に自大学の海外研修では難しいであろう、六大学のメンバー校の他大学の学生とも交流のチャンスが生まれたことになる。

私の印象ではあるが、タイの在留邦人は 2018 年 5 月時点で 70,000 名を超えるほどであるため日本人にとって生活しやすい環境が、バンコクを中心にある程度整えられている。さらに AUN の Dr.Choltis がインタビューでも触れておられた通り、タイ人はホスピタリティが非常に高く親切である。これは非常に日本人にとっては暮らしやすい環境ではないかと思われる。特に、初めて海外に出る学生にとっても、日本人にとって過ごしやすい環境があるということである程度安心して滞在ができるのではないだろうか。

また、日本企業が多く進出するのみならず、日本の大学関係のオフィスもタイ全土で 52 件あるため日本の大学同士の情報交換もしやすいであろう。この大学同士の教員や事務職員の情報交換のなかから、国際交流のチャンスを広げていける可能性を十分に持っているのではないだろうか。ひいてはそれを学生に還元していくことも出来るかもしれない。

今後の展開としては、金沢大学の 大谷副学長のインタビューでも言及されていたように、SUN/SixERS のメンバー校の卒業生の持つ情報ネットワークを使って在學生に、卒業後の進路を考えるきっかけにするとりくみ が実現されると良いのではないかと考えている。

特に、タイには在留邦人の多さからみれば、バンコクで働く OB のみならずそのネットワークを辿って行けば非常に広い人脈に行きつくのではないかと思われる。

さらに、AUN の Dr.Choltis へのインタビュー内でも触れられたように、AUN はタイ以外の ASEAN 各国でも同様のプログラムを実施できるという。とはいえ、タイほど環境が整っており、初めて海外を訪れる学生も安心して訪れることができる国は限られるであろう。

しかし、将来的にはタイ以外の国での海外研修を行うことを SUN/SixERS から AUN に提案することで活動の幅が広がるのではないだろうか。特に、岡山大学を中心に SUN/SixERS の活動を実施しているミャンマーなどでスタディーツアーを実施し、学部学生のうちからこれらの国に慣れ親しんだ学生を増やすことで、当地での将来的な活動の発展につながると考えられる。

学生の中には卒業後に研究者になるものや、私たちのように大学職員になるもの、また民間企業に就職して ASEAN の国に赴くものもいるだろう。その際に、海外研修を通じて自らが卒業した大学や SUN/SixERS の枠組みでの活動を行っていることを知っていれば、将来的な協力も見込める可能性は十分にあると思われる。

更に、タイには日本の大学もたくさんオフィスを構えており、タイを起点とした活動を行うことで、六大学のみならず他の大学とも交流しやすいという利点もある。今後 SixERS の活動を拡大する際に情報交換を実施したり、タイに拠点を置く大学と協力して活動を展開していくことも可能になるのではないだろうか。

謝辞

東京で過ごした1年間、そしてバンコクで過ごした一年間は困難と喜びの連続だった。

困難を感じることは数えきれないほどあったが、その都度周囲の人の優しさに支えられ、乗り切ってくることができたことは本当に幸運と言ってもいい。なによりも、暖かく穏やかな雰囲気の流れるタイでは日タイの大学関係者を始めとする、多くの出会いがあり、その一つ一つが忘れがたい思い出だ。

金沢大学の8月の医工学シンポジウムに参加させていただいたことをきっかけに、六大学の関係者の方との知己を得た。そして、JSPS バンコク研究連絡センターにいたからこそ、各大学の関係者の皆様の訪タイの際に我々のオフィスの訪問を希望する旨のご連絡をいただいて、貴重なお話をお聞きする機会に繋げることができた。

そして、レポート内でも触れた、AUN-SUN/SixERS Study and Visit Programme のご一行が JSPS を訪問して下さったことをきっかけに、AUN のプログラムコーディネーター Pasita Marukee さんと知り合えた。さらに、インタビューをお願いした AUN の Executive Director Dr.Choltis とお会いしたのは、フィリピンへの出張に向う飛行機が同じであったために、スワンナプーム空港のゲートで偶然お会いすることができたのがきっかけであった。タイで起ったたくさんの偶然がこのレポートの中に詰まっていると思うと、とても感慨深いものがある。

インタビューにご協力いただきました金沢大学大谷副学長(国際担当)および、AUN Executive Director Dr.Choltis にはご多忙の中お時間をお取りいただき、詳細にそれぞれの見解を聞かせて頂きました。そして、本文中では十分にご紹介できませんでしたが、千葉大学の織田雄一教授より、SUN/SixERS 立ち上げ時からの関係者としてのお立場から貴重なお話を伺うことができました。お話をお聞きしたのは JSPS バンコク研究連絡センターご訪問の折のことでしたが、織田教授のみならず、同行された教職員の皆様からも貴重な情報交換をさせていただきました。

そして AUN のプログラムコーディネーター Pasita Marukee 様、および金沢大学を始めとする関係者の皆様にはご多忙中にもかかわらず、資料提供等に関しまして大変手厚いご協力を賜りました。この場をお借りいたしまして、皆様のご厚情に対して心より感謝申し上げます。

最後に、レポート作成に当たりまして辛抱強くご指導くださいました日本学術振興会バンコク研究連絡センター、山下邦明センター長、富山大副センター長、そして同期の新原国際協力員、いつも温かくタイでの日常生活に関する助言をしてくれた Nattida Veeramongkornkun 現地職員、日本学術振興会東京本部の皆様、バンコクで大変お世話になりました日・タイ大学関係者の皆様、そして2年間の研修の機会を与えて頂いた新潟大学の関係者の皆様に対し、心よりお礼申し上げます。

参考資料

AUN - SUN/SixERS Study and Visit Programme 2018 AUN より提供

国立六大学連携コンソーシアムの各機能について 金沢大学国際部国際企画課より提供

参考にしたウェブサイト（全ての Website の最終確認日は 2 月 12 日）

文部科学省(MEXT)ウェブサイト <http://www.mext.go.jp/>

千葉大学ウェブサイト <http://www.chiba-u.ac.jp/>

新潟大学ウェブサイト <https://www.niigata-u.ac.jp/>

金沢大学ウェブサイト <https://www.kanazawa-u.ac.jp/>

岡山大学ウェブサイト <http://www.okayama-u.ac.jp/index.html>

長崎大学ウェブサイト <http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

熊本大学ウェブサイト <https://www.kumamoto-u.ac.jp/>

国立六大学連携コンソーシアムウェブサイト <http://sixers.jp/>

AUN ウェブサイト <http://www.aunsec.org/>

日本経済新聞ウェブサイト <https://www.nikkei.com/>

UNESCAP ウェブサイト <https://www8.cao.go.jp/shougai/asianpacific/escapsummary.html>

<http://sixers.jp/about/>

<https://resemom.jp/article/2013/11/27/16144.html>

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/__icsFiles/afieldfile/2012/06/05/1312798_01_3.pdf

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2013/12/18/1341974_01.pdf

<https://www.topuniversities.com/university-rankings-articles/world-university-rankings/world-university-ranking-methodologies-compared>

https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG0603O_W3A300C1CR8000/

<https://resemom.jp/article/2017/09/05/40203.html>